

年金資金運用基金の資金運用の結果について（平成13年度）

（数値は100億円単位で表示）

1 13年度の年金資金運用基金による運用結果の損益

①単年度の損益

○年金資金運用基金による市場運用分の総合収益と引受財投債の収益等を合わせた運用損益は△6,200億円。基金の13年度単年度の損益合計は、この△6,200億円に旧年金福祉事業団から承継した13年度分借入利息6,900億円を加えた△1兆3,100億円。

②累積利差損益

○上記の13年度単年度損益△1兆3,100億円及び13年度始に旧年金福祉事業団から承継した累積利差損1兆7,000億円を合計した累積ベースの損益合計は、△3兆100億円。

2 年金積立金全体で見た運用状況

○名目運用利回りが賃金上昇率を、財政再計算の予定数値を超えて上回っていれば、財政再計算の見通しの範囲内となる。

○年金積立金全体（注）での13年度の収益率はプラス1.94%（2兆7,800億円）。

○ここから賃金上昇率の影響を取り除き、年金財政で予定している財政バランスと比べると、年金積立金全体の13年度の実質運用利回りは、予定を1.24%上回った（金額換算：1.78兆円相当）。

○平成11年財政再計算の推計初年度（平成10年度）からの累計でも、旧年金福祉事業団の9年度までの累積利差損を含めても、予定を年平均0.75%上回っている（金額換算：4.27兆円相当）。

（なお、年金積立金全体の運用状況報告書は、本年9月末頃に公表を予定。）

（注）年金資金運用基金の運用部分と財政融資資金（旧資金運用部）への預託部分の合計。

1. 13年度運用結果（単年度）

（1）13年度資金運用事業の結果

<12年度（旧年金福祉事業団）>

ア. 損益合計（①～④）

	△1兆3,100億円			
①市場運用分の総合収益額	△6,600億円	} △6,200億円	(△1兆4,300億円)	
・修正総合収益率	△2.48%			(△5.16%)
②運用手数料	△300億円			(△400億円)
③引受財投債の収益額	700億円			-
④承継資産運用勘定借入利息	△6,900億円		(△8,500億円)	

イ. 各勘定の損益

厚生年金勘定	△1,420億円	} △1,700億円	} △6,200億円
国民年金勘定	△250億円		
承継資金運用勘定	△4,500億円		
承継資産運用勘定借入利息（再）	△6,900億円	} △1兆1,400億円	

（損益合計△6,200億円を、法律に基づき、資産額に応じて、厚生年金勘定・国民年金勘定及び承継資金運用勘定に按分。さらに、承継資金運用勘定については、按分額△4,500億円に、財政融資資金（旧資金運用部）への借入利息△6,900億円を加算。）

（2）年金資金運用基金の運用資産に係る損益合計額（累積）

（旧年金福祉事業団からの承継利差損を含む）

○累積損失合計額 △3兆100億円

（13年度単年度損益△1兆3,100億円＋旧年金福祉事業団から承継した累積利差損△1兆7,000億円）

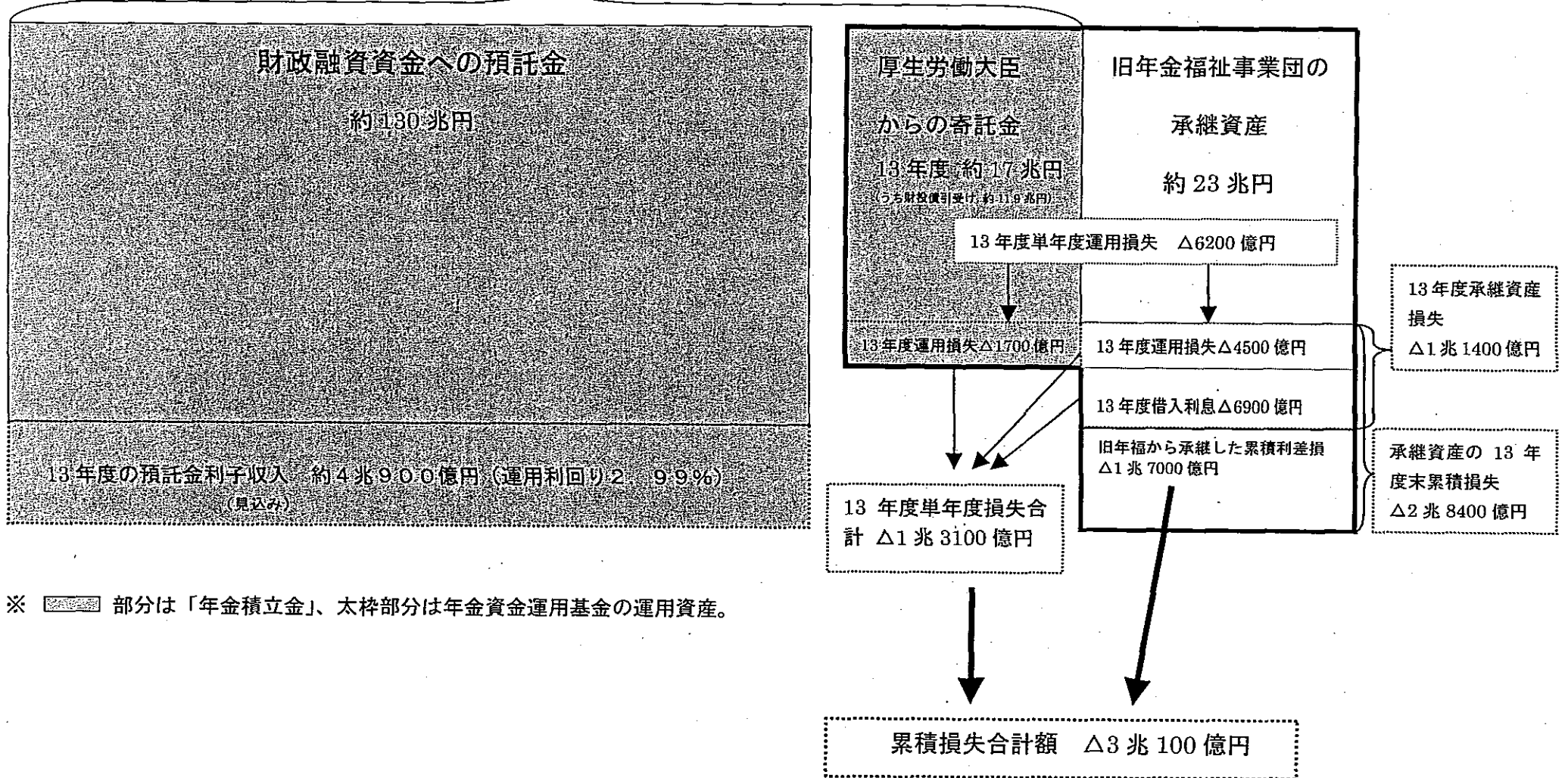
平成13年度 年金積立金及び年金資金運用基金の運用資産の運用結果

年金積立金

「年金積立金の運用についての報告書」において運用結果を公表
(本年9月末頃を予定)【厚生労働大臣】

年金資金運用基金の運用資産

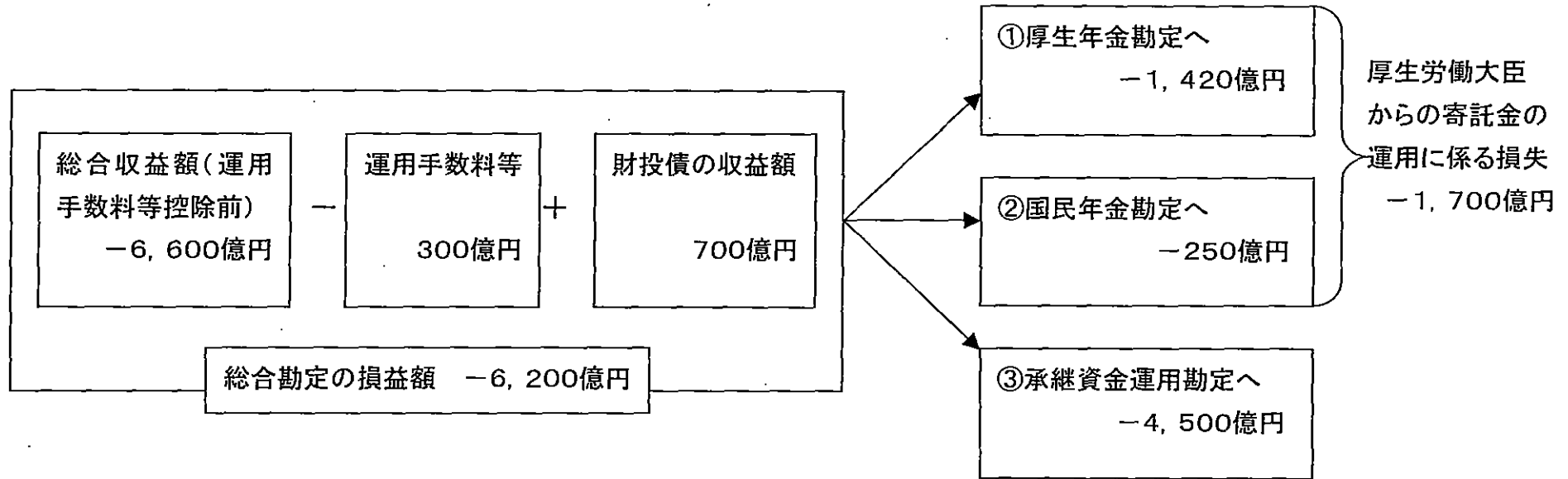
今回の「資金運用業務概況書」
において運用結果を公表
【年金資金運用基金】



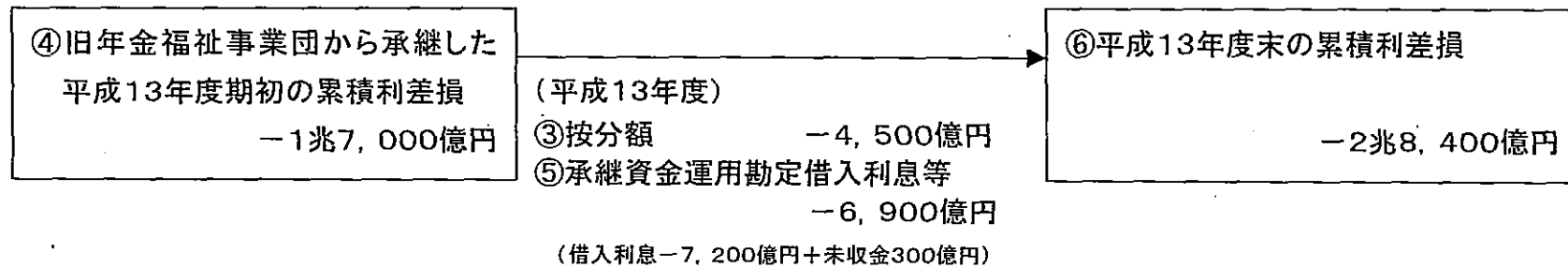
※ 部分は「年金積立金」、太枠部分は年金資金運用基金の運用資産。

【参考資料】（数値は100億円単位で表示）

（参考1）各勘定への損益の按分



（参考2）承継資金運用勘定の累積利差損



合計 -1兆1,400億円

①+②+⑥(※) = -3兆100億円

※⑥ = ③+④+⑤

年金積立金全体で見た場合の収益状況について

— 財政再計算上の予定と運用実績の比較 —

- 1 平成13年度から年金積立金の自主運用が始まったことを踏まえ、今後は、従来のように旧年金福祉事業団分単独の収益状況を見るだけでなく、年金資金運用基金分の損益と預託部分の収益を合計した年金積立金全体の運用状況についても見る必要がある。

2 年金積立金全体で見た場合の収益状況—名目値—

年度		10	11	12	13
市場運用分(注1)	名目損益額①(兆円)	-1.16	1.77	-2.31	-1.31
預託分	名目利子収入額②(兆円)	5.55	5.05	4.59	4.09
積立金全体	名目収益額(①+②)(兆円)	4.39	6.82	2.28	2.78
	名目運用利回り(%)	3.27	4.93	1.58	1.94

(注1) 平成10年度から12年度までは旧年金福祉事業団、平成13年度は年金資金運用基金分の実績値である。

(注2) 名目運用利回りは、名目収益額を積立金平均残高で除した値である。

(注3) 預託分の金利は、7年満期の固定金利で毎年度預託した積立金についての加重平均値であり、実勢金利と比べると高い金利。

3 収益状況を評価する際の視点

- (1) 年金積立金の収益状況は、財政再計算における予定と比較して評価する。
 (2) 現行の公的年金制度は、賃金スライドを基本としているので、運用利回りは、賃金上昇率をどれだけ上回るかがポイント。→ 実質的な運用利回り(名目運用利回りと賃金上昇率の差)で評価する。
 (3) なお、平成11年度の財政再計算は、長期的に名目運用利回り4.0%、賃金上昇率2.5%、実質運用利回り約1.5%と見通しているが、当初の運用利回りと賃金上昇率は、直近の預託金利や賃金上昇率の動向の実績との整合性を図るため、その実績値を織り込んだ数値となっている。

4 財政再計算上の実質値と運用実績の実質値の比較

○平成11年度の財政再計算における10年度～13年度の実質運用利回りの見通しと年金積立金全体のこれに相当する運用実績を比べると、運用実績が財政再計算の予定を上回っており年金財政で見通している財政バランスは確保されている。(下表C欄・年平均プラス0.75%、金額換算4.27兆円)

	A 財政再計算上の前提(%)			B 年金積立金全体の実績(%)			C (財政再計算上の見通しと実績との差)	
	実質運用利回り①	名目運用利回り②	名目賃金上昇率③	実質運用利回り④	名目運用利回り⑤	名目総(標準)報酬上昇率⑥	収益率(%) (④-①)	収益額(兆円)
10年度	4.55	4.24	-0.30	3.77	3.27	-0.48	0.78	-1.05
11	3.56	3.66	0.10	5.58	4.93	-0.62	2.02	2.79
12	1.07	3.60	2.50	1.59	1.58	-0.01	0.52	0.75
13	0.98	3.50	2.50	2.22	1.94	-0.27	1.24	1.78
14	0.97	3.49	2.50					
15	0.97	3.49	2.50					
16	1.04	3.57	2.50					
17	1.23	3.76	2.50					
18	1.46	4.00	2.50					
19	1.46	4.00	2.50					
20	1.46	4.00	2.50					
・	・	・	・					
・	・	・	・					

(平成10年度～13年度)
 年平均 0.75%
 合計額 4.27兆円

(注1) 財政再計算上の前提値は、厚生年金、国民年金ごとに設定されているが、平成13年度までは、年金積立金全体の実績値と比較するため、厚生年金、国民年金の前提値を厚生年金積立金と国民年金積立金の額で加重平均した値を記入。平成14年度以降は、厚生年金の財政再計算上の前提値を記入。

(注2) 財政再計算上の長期的な実質運用利回り約1.5%は概数であり、厳密には1.46%である。

(1+名目運用利回り(4.0%) / 100) / (1+賃金上昇率(2.5%) / 100) × 100 - 100 = 1.46

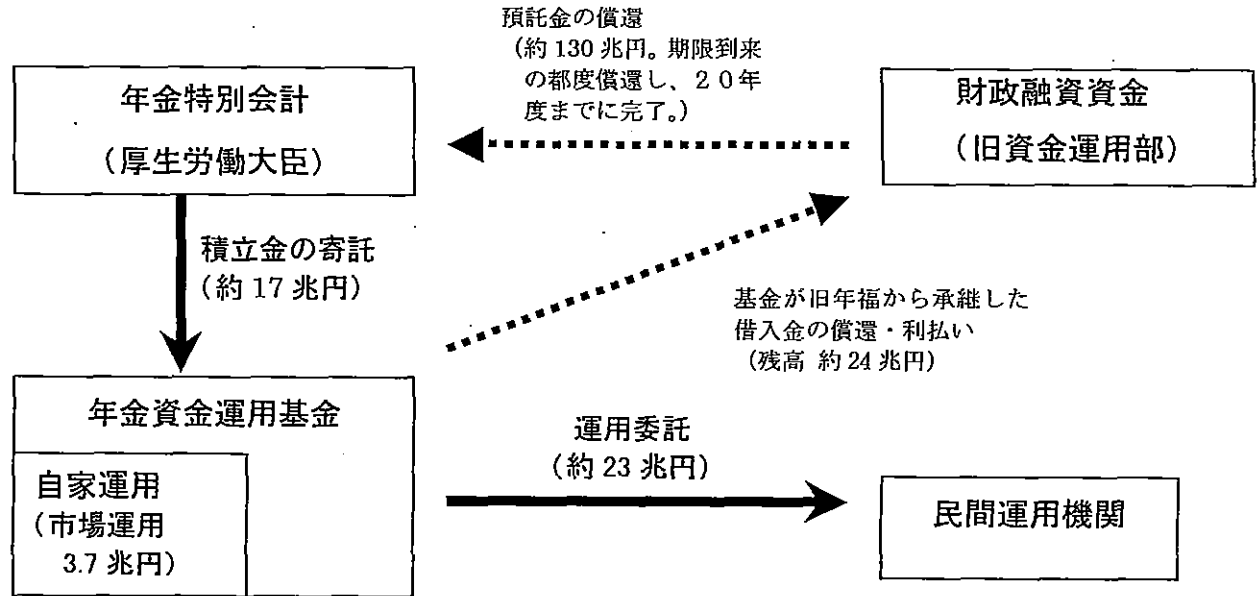
【新たな仕組み（平成13年度から）】

（ポイント）

- 厚生労働大臣による自主運用。
資金運用部への預託義務の廃止。
- 厚生労働大臣は、年金資金運用基金(H13.4 設置)に資金を寄託することにより運用。

（図の数値は平成13年度末）

※旧年金福祉事業団における運用業務は年金資金運用基金が承継し、承継資金運用業務として平成22年度まで実施



【従来の仕組み（平成12年度まで）】

（ポイント）

- 積立金全額を資金運用部(旧大蔵省)へ義務預託。
- 年金福祉事業団が、資金運用部から資金を借り入れて、別途に運用。

（図の数値は平成12年度末）

